

第4期中期目標・中期計画【5-2-①】に関する
令和6年度 自己評価書

国際企画推進室会議

中期目標・中期計画自己評価書検討部会

令和 6 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 ①令和5年度の自己評価書を公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。
【R6 年度行動計画(Plan)】 ・ 令和 5 年度の自己評価書を公表する。併せて、各事業で令和 6 年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和 6 年度の自己評価書をまとめ、令和 7 年度 of 取組改善案（取組改善案を含む）を立案する。
【R6 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・ 令和6年5月に、令和 5 年度自己評価書を本学 HP に掲載した。 https://www.kagoshima-u.ac.jp/international/2023_jikohyouka-2.pdf ・ 各事業で令和6年度の行動計画を実施し、実績のまとめを行った。併せて、令和7年度の行動計画を立案した。
【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 計画どおり実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R6 年度行動計画(Plan)に相当)】 ・ 令和6年度の自己評価書を公表する。 ・ 各事業で令和7年度の行動計画を実施する。また、各事業の実績をまとめた令和7年度の自己評価書をまとめ、令和8年度の行動計画（取組改善案を含む）を立案する。

令和 6 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 「1)地域特性や SDGs の観点を活かした分野横断的でグローバルな教育」 ・引き続き、保農獣工連携家庭訪問事業等の取組を実施する。
【R6 年度行動計画(Plan)】 ・工学部から令和6年度経営戦略経費に応募する。 ・FAMU とのオンライン協働学習を実施し、国際的な教員間連携を強化する。FAMU 側の経費で教員・学生の来鹿を予定しており、本事業との協働によって、離島への実渡航による国際連携家庭訪問事業への展開を図る。 ・看護職と住民への調査結果について、学会誌に投稿する。
【R6 年度取組実績及び進捗状況(Do)】 ・工学部から令和6年度経営戦略経費に応募し採択された。 ・保農獣工の教員で構成されたワーキンググループ会議を開催し、令和6年度の事業は9月 27 日、10 月 9～12 日(計 45 時間)、工学部の GOES Home との合同事業として、高度共通教育科目「Kagoshima de SDGs II」での実施が決定した。 ・甬島での国際連携家庭訪問事業(10 月 10 日～11 日実施)では、フロリダ A&M 大学から、建築学生 12 名と教員 1 名、職員 1 名が、本学から学生 8 名(医学部保健学科 3 名、共同獣医学部 1 名、工学部 1 名、理工学研究科 3 名)が参加し、共修した。 ・令和4年度に行った事業について論文にまとめ、「Frontiers in Education-Higher Education」に投稿し掲載された。 ・令和4年度に撮影した2名の対象者への学生によるインタビュー動画を英語化した教材を作成し、今後の事業で活用予定である。 ・令和5年3月に実施した、三島村の看護職 8 名を対象とした調査について、医学部保健学科紀要に投稿し掲載された。また、日本農村医学会雑誌への投稿準備を行った。
【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価(Check)】 ・当初の計画通り、フロリダ A&M 大学学生 12 名と本学学生 8 名との共修が実現でき、離島への実渡航による国際連携家庭訪問事業への展開が図れた。 ・農学部からの参加がなく、医学部保健学科、共同獣医学部、工学部及び理工学研究科での実施となったため、学生への本事業の周知方法が課題となった。 ・本事業の成果を英文雑誌で発表できたことは、広く世界の教育関係者に知ってもらう機会となった。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R7 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・大隅半島のへき地において、フロリダ A&M 大学の学生と本学保農獣工(医学部保健学科、農学部、共同獣医学部、工学部及び理工学研究科)の学生との共修で国際連携家庭訪問事業を実施する。
- ・国際連携家庭訪問事業をかごしま地域リサーチプログラム「離島へき地のワンヘルス(One Health)」の科目で実施する。
- ・学生への有効的な周知方法を検討する。
- ・看護職8名を対象とした調査について、日本農村医学会雑誌に投稿し掲載を目指す。

令和6年度 自己評価書（第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【1）地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 「2）国際共修教育」 ・大学間学術交流協定校との間の国際共修について制度的安定化を図り、これをモデルとして全学的な展開を推進する。 ・大学の世界展開力強化事業をはじめとした国際共修教育の推進に繋がる外部資金への申請に向けた企画・立案を行う。
【R6 年度行動計画（Plan）】 ・国立中央大学と本学との間で大学間学術交流協定を締結し、両大学間の国際共修について制度的安定化を図り、地域防災をテーマとする国際共修を実施する。それを1つのモデルに、国際共修の全学展開を推進する。 ・引き続き、大学の世界展開力強化事業で締結した協定等に基づく海外大学との交流活動を継続する。
【R6 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・令和6年5月に、国立中央大学（台湾）との間で大学間学術交流協定を締結し、オンライン交流 COIL：10月～11月（全5回）、直接交流（鹿児島：11月19日～23日（本学学生8名、台湾学生8名）、台湾：2月18日～3月4日（本学学生10名、台湾学生8名））の国際共修プログラムを実施した。 ・国際共修の全学的な展開として、理工学研究科では国立成功大学（台湾）と国際共修受入プログラムを実施し、本学学生24名、台湾学生12名が参加した。また、農学部が主体となり雲南農業大学（中国）との国際共修受入プログラムを実施し、本学学生3名、中国学生10名が参加した。 ・上記のほか、大学の世界展開力強化事業で締結した協定等に基づく大学との交流を行い、学生の交換留学、研究者交流のほか、派遣とオンライン交流を組み合わせた国際共修プログラムを実施し、継続的な交流活動を実施した。 （参考資料） 令和6年度大学の世界展開力強化事業で締結した協定等に基づく海外大学との交流活動状況
【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・国立中央大学（台湾）との、オンライン交流と受入と派遣を組み合わせ、継続的な交流による質の高い国際共修プログラムを成功させ、内容の点では協働学習のモデルを作ることができた。一方で、受入プログラムにおける本学の参加学生の単位化や国際共修プログラムの経費支出の問題など、国際共修を推進する上での制度的課題がいくつか残った。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)(R7 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・国際共修の受入プログラムにおける制度的課題を解決し、国際共修プログラムを本学グローバル教育の要として全学的な展開を更に推進する。

令和6年度行動計画「大学の世界展開力強化事業で締結した協定等に基づく海外大学との交流活動状況」

No.	コース名	大学名	国・地域	協定種別	実渡航				オンライン (参加学生数)	
					受入		派遣		鹿児島大学	海外大学
1	日本文化論コース	サンノゼ州立大学	米国	大学間	2	(2)	1	(1)	26	28
2		ブーラパー大学	タイ	部局間	0	(0)	0	(0)	0	0
3	島嶼へき地医療コース	ベレアカレッジ	米国	部局間	0	(0)	0	(0)	0	0
4		韓国中央大学校	韓国	部局間	1	(0)	1	(0)	0	0
5	臨床獣医学コース	ジョージア大学	米国	大学間	0	(0)	0	(0)	0	0
6		国立中興大学	台湾	大学間	5	(2)	0	(0)	0	0
7	食料生産コース	テキサスA&M大学	米国	-	0	(0)	0	(0)	0	0
8		チェンマイ大学	タイ	-	0	(0)	0	(0)	0	0
9	食の安全コース	オクラホマ州立大学	米国	-	0	(0)	0	(0)	0	0
10		メーファールアン大学	タイ	部局間	2	(2)	0	(0)	0	0
11	食と健康コース	ノースダコタ州立大学	米国	大学間	0	(0)	0	(0)	0	0
12		湖南農業大学	中国	大学間	8	(8)	4	(0)	14	15
13	ナノバイオコース	ノースダコタ州立大学	米国	大学間	0	(0)	11	(10)	31	0
14		国立成功大学	台湾	大学間	12	(12)	0	(0)		0
15	環境建築デザインコース	タスキーギー大学	米国	-	0	(0)	0	(0)	0	0
16		ディボネゴロ大学	インドネシア	大学間	4	(2)	8	(4)	8	8
17	移民と教育コース	ウィスコンシン大学ラクロス校	米国	大学間	0	(0)	0	(0)	0	0
18	水産資源化発利用コース	フィリピン大学ピサヤス校	フィリピン	大学間	0	(0)	16	(14)	19	0
19		ハワイ大学マノア校	米国	大学間	2	(0)	2	(2)	0	0
20	その他	国立中央大学	台湾	大学間	8	(8)	11	(10)	10	10
合計					44	(36)	54	(41)	108	61

※（ ）は内数で学生数を示す。

令和6年度 自己評価書（第4期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【(1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ】 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受入
【R6年度行動計画（Plan）】 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）に出席する（9月）。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、manabaを用いたCOILで1),3)に関する予備学習プログラムを提供する（10月から）。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1),3)国際共修教育を実施する（1～2月）。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・サマースクールを実施する（2月を予定）。
【R6年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議（CSLM）にオンラインで出席した（令和6年9月24日～26日）。 ・エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生5名（セネガル1名、メキシコ1名、フランス3名）を理工学研究科の特別聴講学生として受け入れ、歴史遺産保全や鹿児島の世界遺産等に関する講義のほか、奄美大島においてフィールドワークを行い、国際共修教育を行った。（令和7年1月11日～2月28日）。 エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・サマー（ウィンター）スクールを実施し、教授6名（フランス・パリ第一大学1名、イタリア・パドヴァ大学3名、ポルトガル・エヴォラ大学2名、セネガル・シェイク・アンタ・ジョップ大学1名）及び教務助手2名（フランス・パリ第一大学1名、ポルトガル・エヴォラ大学1名）を受け入れ、アジア諸国（インドネシア、カンボジア、ベトナム）とのオンライン会議、法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センターでの研究交流会等を実施した（令和7年1月15日～17日）。
【R6年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・例年の短期留学生の受入に加え、サマー（ウィンター）スクールを実施し、分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育の展開に大きな成果を得た。

【上欄に基づく取組改善策の立案(Action) (R7 年度行動計画(Plan)に相当)】

- ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生受け入れに向け、当該修士課程の運営会議(CSLM)に出席する(9月)。
- ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生の受け入れに向け、COILで1)¹, 3)²に関する予備学習プログラムを提供する(10月から)。
- ・ エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムの短期留学生を受け入れ、1)¹, 3)²に関する国際共修教育を実施する(1～2月)。

¹ 1) 地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ

² 3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ

令和 6 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【2) 外国語教育】 「3) 外国語教育」 ・ 本学の授業科目における SDGs 関連の取扱いの検証を行う。 ・ 学生の英語力の客観的把握及び結果の検証を行う。
【R6 年度行動計画（Plan）】 ・ SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、令和 5 年度の Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。可能であれば令和 6 年度の Web シラバスも含め、検証を試みる。 ・ 令和 6 年度も引き続き、前年と同じ外部試験(G-TELP)を導入するとともに、令和 4 年度・令和 5 年度の試験結果を得て、検証する。
【R6 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・ SDGs に関しては、令和 6 年度の共通教育英語の Web シラバスの内、リーディング授業（英語 IA と IIA）を中心に 1 年生の英語クラスの分析を実施した。後期の II A の 46 クラス中、40 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 86%になる。1 年生対象の共通教育英語（後期の英語 IIA、IIB、英語 I、）全体クラス中、101 クラスで SDGs を取り扱っており、これは 83%になる。 ・ 令和7年度の推奨テキストリストのリーディング部分に SDGs 関連の教科書を加え、令和7年度推奨テキストリストを更新した。 ・ 令和6年度の前期と後期に外部試験(G-TELP)を対面・ペーパーテスト形式により実施した。 ・ 追加事項として、昨年度(令和 5 年度)の試験結果のデータ整理を行い、令和3年度、令和4年度、令和5年度 と同じ形で分析を行った(経年変化を見込んだ拡大分析—後の教育課題への先取り—に向けて)。
【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・ SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みた。 ・ 経営戦略経費に申請して財源を確保した英語外部試験について検討した結果、G-TELP を実施することとし、1 年生と 2 年生前期・後期の全学生に試験を実施した。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)（R7 年度行動計画(Plan)に相当）】 ・ SDGs をどの程度授業で扱っているのかを、令和 6 年度の Web シラバスの SDGs の項目のチェック数などで検証を試みる。可能であれば令和 7 年度の Web シラバスも含め、検証を試みる。 ・ 令和 7 年度も引き続き、前年と同じ外部試験(G-TELP)を導入するとともに、令和 5 年度・令和 6 年度の試験結果を得て、検証する。

令和 6 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ】 「4) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育」 ・関連する法令改正の動向を踏まえ質の確保に努めるとともに、留学生の多様なニーズに対応した日本語・日本文化教育を実施する。
【R6 年度行動計画（Plan）】 ・外国人留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化教育の実施
【R6 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・全学留学生を対象に対面で実施する Study Japan Program において、開講時期をずらして実施するオンライン科目に加え、桜ヶ丘キャンパスでの対面クラスを新たに開講し、多様な留学生のニーズに対応した。 ・令和 6 年度前期、学部正規留学生を対象に実施している共通教育科目「日本事情 A」において、防災、鹿児島地域の特性、情報倫理、メンタルヘルスについての理解を深めるための講義を、学内 7 部局教員の協力を得て実施した。（受講留学生 23 名） ・法文学部で開講される「社会教育実習Ⅱ」に日本語・日本文化研修留学生（国費）8 名が参加した。この科目では地域の現状や課題について調査・分析し、その成果を報告することで地域に還元するという国際共修を行った。
【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価（Check）】 ・計画どおり、多様な日本語・日本文化教育を実施した。 ・鹿児島で学ぶ留学生が地域の特性を知り、課題に取り組むといった科目の充実、拡大は、高く評価される。
【上欄に基づく取組改善策の立案(Action)（R7 年度行動計画(Plan)に相当）】 ・外国人留学生の多様なニーズに対応する日本語・日本文化教育を実施する。
参考資料 2024 年前期 SJP 科目受講者の情報：開講クラス、受講者の国籍、在籍身分 2024 年後期 SJP 科目受講者の情報：開講クラス、受講者の国籍、在籍身分

科 目		受講 者数	性別		修了 者数	受講者の在籍資格					専門・所属																			
			男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備 教育生	短期等	農学	共同 獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	保険	理工	農林 水産学	医歯	臨床 心理	共同 獣医学研	連合 農学	連合 獣医	他 大学	
会話1A(含入門日本語1)		17	8	9	10	0	2	6	2	7	5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	0	1		
会話2A		7	4	3	6	0	4	2	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0		
会話3A		10	5	5	10	0	0	3	0	7	0	0	0	0	2	6	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
会話4A		8	3	5	6	0	3	2	0	3	0	0	0	0	0	3	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0		
会話5A		12	4	8	12	0	1	1	0	10	1	0	0	0	0	8	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0		
会話6A		16	9	7	15	0	1	1	0	14	0	0	0	0	0	11	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0		
総合日本語1		17	9	8	17	0	0	2	0	15	0	0	0	0	0	11	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
総合日本語2		18	9	9	17	0	0	2	0	16	0	0	0	0	0	12	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
演習1A		13	6	7	8	0	2	6	2	3	5	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	1		
演習2A		3	2	1	3	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
演習3A		11	5	6	11	0	0	4	0	7	0	0	0	0	2	7	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
読解4A		10	4	6	9	0	3	2	0	5	0	0	0	0	1	3	1	0	0	2	0	1	0	0	0	2	0	0		
読解5A		16	6	10	15	0	2	1	0	13	2	0	0	0	0	9	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0		
読解6-1A 論文読解基礎		15	7	8	15	0	0	2	0	13	0	0	0	0	0	10	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
読解6-2A		13	5	8	11	0	1	2	0	10	0	0	0	0	0	9	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0		
作文5A		13	5	8	13	0	1	1	0	11	0	0	0	0	0	9	2	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0		
作文6A		12	6	6	11	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
作文7A		5	3	2	5	0	1	0	0	4	0	0	0	0	0	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
漢字		16	6	10	16	0	1	1	0	14	0	0	0	1	1	10	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0		
日本語ワークショップ A		28	8	20	24	0	0	1	0	27	1	0	0	0	0	15	5	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0		
留学生のための異文化理解		2	1	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1		
日本社会と文化 1		15	7	8	12	0	5	3	0	7	1	0	0	0	1	5	1	0	1	2	0	1	1	0	0	2	0	0		
日本社会と文化 2		12	3	9	11	0	0	2	0	10	2	0	0	0	0	8	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
修了レポート		2	1	1	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本語プレゼンテーション		4	1	3	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本語研修生レポート		4	1	3	4	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
SJP科目 小計		299	128	171	269	0	28	45	6	220	17	2	3	3	11	151	42	0	4	25	0	12	16	3	0	5	2	0	3	
オンラインクラス	Step1	5	4	1		0	1	4	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0		
	Step2	5	1	4		0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0		
	計	10	5	5		0	5	4	0	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	0	0	1	0	0		
グローバルセンター開講科目 総計		309	133	176		0	33	49	6	221	18	2	5	3	11	151	42	0	4	25	0	13	18	6	0	5	3	0	3	
日本語I*		20	12	8		20	0	0	0	0	5	0	2	0	9	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本語II*		20	12	8		20	0	0	0	0	5	0	2	0	9	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
日本事情A*		23	14	9		23	0	0	0	0	5	0	2	0	12	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
共通教育科目 計		63	38	25		63	0	0	0	0	15	0	6	0	30	3	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

国籍	科目名																																				
	入門 日本語 1	会話 1 A	会話 2 A	会話 3 A	会話 4 A	会話 5 A	会話 6 A	総合 日本語 1	総合 日本語 2	演習 1 A	演習 2 A	演習 3 A	読解 4 A	読解 5 A	読解 6 I 1 A	読解 6 I 2 A	作文 5 A	作文 6 A	作文 7 A	漢 字	日 本 語 ワ ー ク シ ョ ッ プ A	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	留 学 生 の た め の 異 文 化 理 解	修 了 レ ポ ー ト	日 本 語 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	日 本 語 研 修 生 レ ポ ー ト	S J P 科 目 計	オンラインクラス			グ ロ ー バ ル セ ン タ ー 開 講 科 目 計	日 本 語 I	日 本 語 II	日 本 事 情 A	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計
																													S t e p 1	S t e p 2	計						
アメリカ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	4
イギリス	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	3
インド	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	5
インドネシア	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1	15	0	2	2	17	0	0	0	0	17
エチオピア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1
オーストラリア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	4
オーストリア	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	5
韓国	0	0	0	1	0	5	4	4	4	0	0	1	1	7	5	2	7	2	2	6	3	1	5	0	0	1	1	62	0	0	0	62	5	5	8	18	80
カンボジア	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	1	2	1	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	13	0	0	0	13	0	0	0	0	13
スリランカ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0	0	2	
スペイン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
ジンバブエ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
タイ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	7	0	0	0	7	0	0	0	0	7
台湾	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	1	1	1	3	7
タンザニア	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	5
中国	0	6	1	1	1	4	7	9	9	0	0	1	0	6	9	8	3	5	2	0	14	2	5	0	0	1	1	95	4	2	6	101	13	13	13	39	140
トルコ	0	0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	0	1	0	1	1	0	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	15	0	0	0	15	0	0	0	0	15
ドイツ	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	2	0	1	0	0	1	0	0	3	0	1	1	0	0	0	0	14	0	0	0	14	0	0	0	0	14
ノルウェー	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	4	
フランス	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	1	0	0	2	3	1	1	0	0	0	0	18	0	0	0	18	0	0	0	0	18
フィリピン	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	1	1	4	0	0	0	0	4	
ブラジル	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	7	0	0	0	7	0	0	0	0	7	
ベトナム	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	0	4	
ペルー	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	2	
マレーシア	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	0	0	0	6	0	0	0	0	6	
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	3	
受講者総数	2	15	7	10	8	12	16	17	18	13	3	11	10	16	15	13	13	12	5	16	28	15	12	2	2	4	4	299	5	5	10	309	20	20	23	63	372

注) 1 数字は延べ数。

各授業の受講者数、性別、修了者数、受講者の在籍資格、専門・所属
令和6年度後期

科 目	受講 者数	性別		修了 者数	受講者の在籍資格					専門・所属																		
		男性	女性		学部生	大学院生	研究生	予備 教育生	短期等	農学	共同 獣医	水産	医学	工学	法文	教育	歯学	理学	人文	保険	理工	農林 水産学	医歯	臨床 心理	共同 獣医学研	連合 農学	連合 獣医	他 大学
入門日本語1（郡元キャンパス）	17	7	10	16	0	4	9	0	4	7	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	
入門日本語1（桜ヶ丘キャンパス）	13	6	7	7	0	5	2	0	6	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	
会話1B	5	4	1	4	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	
会話2B	16	6	10	14	0	6	2	0	8	4	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	1	2	3	0	0	0	0	
会話3B	11	7	4	10	0	1	2	0	8	1	0	0	0	1	2	4	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	
会話4B	11	9	2	9	0	0	5	0	6	0	0	0	1	2	7	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
会話5B	10	3	7	9	0	2	2	0	6	0	0	0	0	0	5	3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	
会話6B	18	5	13	17	0	0	2	0	16	0	0	0	0	0	13	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
総合日本語1	21	5	16	21	0	1	1	0	19	1	0	0	0	0	11	2	0	0	6	0	1	0	0	0	0	0	0	
総合日本語2	20	4	16	20	0	0	1	0	19	1	0	0	0	0	11	2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	
演習1B	5	4	1	5	0	3	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	
演習2B	14	5	9	13	0	4	2	0	8	4	0	0	0	2	2	2	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	
演習3B	17	11	6	16	0	1	5	0	11	1	0	0	1	2	5	4	0	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	
読解4B	12	9	3	10	0	1	5	0	6	0	0	0	1	1	8	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
読解5B	9	5	4	9	0	1	2	0	6	0	0	0	0	1	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
読解6-1B 論文読解基礎	26	7	19	25	0	0	2	0	24	1	0	0	0	0	13	5	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	
読解6-2B	21	7	14	18	0	1	2	0	18	2	0	0	0	0	13	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
作文5B	9	5	4	9	0	2	3	0	4	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	
作文6B	16	7	9	14	0	1	2	0	13	0	0	0	0	0	11	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	
作文7B	13	5	8	13	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	9	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
漢字	15	7	8	14	0	4	0	0	11	1	0	0	0	1	5	4	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0	
日本語ワークショップ B	35	19	16	32	0	0	2	0	33	0	0	0	0	0	24	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
日本社会と文化 1	10	8	2	7	0	1	3	0	6	0	0	0	1	1	6	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0		
日本社会と文化 2	10	5	5	10	0	1	1	0	8	0	0	0	0	0	6	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
留学生のための異文化理解 ※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバルセンター開講科目 総計	354	160	194	322	0	42	58	0	254	25	1	3	10	13	160	55	0	0	32	0	15	24	13	0	3	0	0	

日本語Ⅲ*	20	12	8	／	20	0	0	0	0	5	0	2	0	9	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本語Ⅳ*	21	13	8	／	21	0	0	0	0	5	0	2	0	10	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本事情B*	21	12	9	／	20	0	0	0	1	5	0	2	0	9	2	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計	62	37	25	／	61	0	0	0	1	15	0	6	0	28	4	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属：予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等：特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。
4 修了者数欄  は修了認定をしない授業。
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。
※ 共通教育科目に登録できない学生について記載

受講者の国籍
令和6年度後期

国籍	科目名																													
	入門 日本語 1 （郡元）	入門 日本語 1 （桜が丘）	会 話 1 B	会 話 2 B	会 話 3 B	会 話 4 B	会 話 5 B	会 話 6 B	総 合 日 本 語 1	総 合 日 本 語 2	演 習 1 B	演 習 2 B	演 習 3 B	読 解 4 B	読 解 5 B	読 解 6 Ⅰ 1 B	読 解 6 Ⅰ 2 B	作 文 5 B	作 文 6 B	作 文 7 B	漢 字	日 本 語 ワ ー ク シ ョ ッ プ B	日 本 社 会 と 文 化 1	日 本 社 会 と 文 化 2	グ ロ ー バ ル セ ン タ ー 開 講 科 目 計	日 本 語 Ⅲ	日 本 語 Ⅳ	日 本 事 情 B	共 通 教 育 科 目 計	国 別 人 数 総 計
アメリカ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	7	0	0	0	0	7
インド	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	0	0	5
インドネシア	0	8	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	1	1	0	2	0	0	18	0	0	0	0	18
エチオピア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
オーストリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3
オーストラリア	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	3
カンボジア	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	9	0	0	0	0	9
韓国	0	0	0	1	1	1	0	5	6	6	0	1	1	1	0	3	6	0	1	3	2	4	1	0	43	5	6	6	17	60
キルギス	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	4
シエラレオネ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
タンザニア	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	6	0	0	0	0	6
タイ	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	1	0	8	0	0	0	0	8
台湾	0	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	8	1	1	1	3	11
中国	11	3	2	6	5	5	4	7	11	11	2	6	9	4	3	15	7	5	6	8	0	17	4	4	155	13	13	13	39	194
ドイツ	0	0	0	1	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	1	1	0	1	0	2	2	0	0	15	0	0	0	0	15
トルコ	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	2	0	2	0	2	1	1	2	14	0	0	0	0	14
ナイジェリア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
パキスタン	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
フランス	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	0	0	0	6
ブラジル	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	7	0	0	0	0	7
フィリピン	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	1	0	0	8	0	0	0	0	8
ペルー	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	0	0	0	0	6
マレーシア	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	0	10	0	0	0	0	10
ミャンマー	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	5	1	1	1	3	8
ロシア	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	1	6	0	0	0	0	6
受講者総数	17	13	5	16	11	11	10	18	21	20	5	14	17	12	9	26	21	9	16	13	15	35	10	10	354	20	21	21	62	416

注) 1 数字は延べ数。

令和 6 年度 自己評価書（第 4 期中期目標・中期計画【5-2-①】関係）

中期目標・中期計画【5-2-①】
【評価指標に係る当該年度の目標値】 各事業で令和6年度の行動計画を実施する。
【3) 外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ】 「5) 異文化環境でのインターンシップ」 ・キャリア形成支援センターと連携し、留学生を対象としたインターンシップを案内・企画する。 ・留学生の国内就職促進に向けた取組を企画・実施する。
【R6 年度行動計画（Plan）】 ・引き続き、キャリア形成支援センターとの協力関係を構築し、留学生を対象としたキャリア教育、留学生のインターンシップに向けた取り組みを行うとともに、留学生の就職活動についての実態把握に努める。
【R6 年度取組実績及び進捗状況（Do）】 ・令和 6 年 7 月 4 日、キャリア形成支援センターの協力を得て、学部留学生を対象とした必修科目「日本事情 A」において、日本の就職活動やインターンシップについて、基礎的な知識を学ぶ講義を実施した。（受講留学生 23 名） ・国際事業課では令和 6 年 6 月に「鹿児島大学外国人留学生国内就職支援金」を創設し、日本国内の企業・団体等に就職した外国人留学生に就職活動に要した経費等を支援し、外国人留学生の国内就職を促す取り組みを開始し、7 名（学部生 3 名、大学院生 4 名）に支援を行った。 ・令和 6 年 7 月 5 日、鹿児島大学に在籍する外国人留学生を対象にした国内就職支援事業説明会をオンラインで開催し、日本での就職を希望する外国人留学生 15 名が参加した。説明会では、国際事業課から留学生の国内就職支援について、キャリア形成支援課から就職活動の方法について説明があったほか、元留学生から就職活動体験談が語られた。キャリア形成支援センターの共催で、外国人留学生国内就職支援事業説明会を実施した。 ・令和 6 年 7 月 17 日、外国人留学生への就職支援の一環として一般社団法人留学生支援ネットワークが運営する「留学生就職支援ネットワークシステム」に加入し、日本で就職を希望する外国人留学生が、日本での就職活動の方法や就職試験対策の学習ができるほか、外国人留学生の採用に積極的な企業の採用情報や外国人留学生向けのガイダンスやセミナーの情報、合同企業説明会や面接会などの情報を入手できる環境を整えた。 ・令和 6 年 10 月から、キャリア形成支援センターと連携し、外国人留学生を対象にハローワーク鹿児島の専門家による出張就職相談（月 2 回）を開始し、15 名（学部生 3 名、大学院生 12 名）の就職相談を行った。

【R6 年度取組実績に対する自己検証・自己評価 (Check)】

- ・キャリア形成支援センターと共催の説明会開催や情報共有が計画どおり行われた。
- ・「鹿児島大学外国人留学生国内就職支援金」の創設により、留学生の国内就職を推進する取り組みが強化された。

【上欄に基づく取組改善策の立案 (Action) (R7 年度行動計画 (Plan) に相当)】

- ・キャリア教育を学部留学生の必修科目に組み込み、取り扱う時間を拡充する。
- ・キャリア形成支援センターと連携して外国人留学生を対象としたインターンシップや就職相談などの情報を周知し、国内就職の推進を図る。

【第4期中期目標・中期計画】国際関係抜粋

中期目標	【5】学生の海外派遣の拡大や、優秀な留学生の獲得と卒業・修了後のネットワーク化、海外の大学と連携したオンラインの活用を含めた国際的な教育プログラムの提供等により、異なる価値観に触れ、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材を養成する。	
	中期計画	【5-1】国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を目指して、必要となる協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定等によって、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流及びダブルディグリー・プログラム等で実現するグローバルな教育制度、海外活動における危機管理教育等の異文化での学習を支援する体制、並びに経済的支援等の制度を整備する。
	評価指標	①グローバルな教育制度や異文化での学習を支援する体制・制度に必要な協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定によって実施した事業数（第4期中期目標期間中の合計）
	水準	①10件以上
	設定理由	①「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を、「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等を適切に締結・改定・策定することにより、世界的に拡大する海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充が実現できるため、それらを適用して実施した事業数を計画達成の評価指標と考える。
具体的取組		①1）「グローバルな教育制度」は、オンラインの活用を含めた学術交流協定校との学生交流やダブルディグリー・プログラム、エラスムス・ムンドゥス修士課程ジョイントディグリー・プログラムへの参加、大学の世界展開力強化事業で締結したプログラム協定等の本学独自の海外大学との協定等の締結・改定で実現する制度、並びに、海外大学取得単位をカリキュラムに組込む学内の制度等を想定している。 また、2）「異文化での学習を支援する体制」は、オンライン国際協働学習（COIL）強化のための交流活動、課外外国語学習、海外活動における危機管理教育等の体制を想定し、3）「異文化での学習を支援する制度」は、経済的支援制度等を想定している。 必要に応じてこれらの制度・体制に係る協定、規則、要項、マニュアル等の締結・改定・策定を適切に実施することにより、成果として、海外教育機関等とのオンラインの活用を含めた国際共修教育の基盤となる国際的教育連携の拡充を想定している。

中期計画	【5-2】地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材の養成を目指して、地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、外国語教育、外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ等を推進し、海外派遣・受入にオンラインの活用を含めた新たな双方向学生交流を促進する。	
	評価指標	①各事業の成果報告を全学的にまとめる仕組みの構築と自己評価結果に基づく取組改善策の立案状況
	水準	①成果を全学的にまとめた自己評価書を毎年度公表するとともに、評価結果に基づく取組改善策を実施する
	設定理由	①現在、これらの国際的な教育等について、全学的に情報をまとめる仕組みが存在しないため、この仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施することで、新たな双方向学生交流の促進状況、及び地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成等についての情報提供・検証等が行えるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	①「1)地域特性やSDGsの観点を活かした分野横断的でグローバルな教育、国際共修教育、異文化環境でのインターンシップ」、「2)外国語教育」、「3)外国人留学生に対する日本語・日本文化教育、異文化環境でのインターンシップ」について成果報告を全学的にまとめる仕組みを構築し、自己評価書を毎年度公表し、評価結果に基づく取組改善策を実施する。成果として、PDCAサイクルで情報提供・検証を行うことで、新たな双方向学生交流を促進し、地域特性をグローバルな視点で捉える国際感覚を持った人材養成に寄与することを想定している。
	評価指標	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用して国際的な教育を実施した授業科目数（第4期中期目標期間中毎年度）
	水準	②大学全体で年間20科目以上
	設定理由	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講することで、国際的な教育が推進できるため、計画達成の評価指標と考える。
	具体的取組	②海外教育機関等とオンラインや学内外での学修活動を活用した国際的な教育を実施する授業科目を、大学全体で年間20科目以上開講する。成果として、国際的な教育の推進を想定している。